



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆Young 探鳥会が出来るまで (第2回)・・・1
- ◆2019 日本野鳥の会東京・リーダーズフォーラム・・・3
- ◆日本野鳥の会石川・リーダー研修会報告・4
- ◆探鳥会リーダーズフォーラム2018
ご報告 (概要版)・・・5
- ◆2019 年度春期「初心者向けバードウォッチング」結果一覧・・・8
- ◆探鳥会保険集計結果・・・10
(2019年6月分)
- ◆普及室からのお知らせ・・・12
 - ・2019 年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします
 - ・冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください
 - ・今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは 10 月から受付開始!
- ◆今月の購読者数・・・13
- ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・14
- ◆編集後記・・・14

◆Young 探鳥会が出来るまで (第2回)

先月号から、Young 探鳥会の創始者である神奈川支部幹事の小松さんによる、Young 探鳥会の誕生にまつわるお話を連載しています。支部で新しいことに取り組もうとされている方には、励みになる貴重なお話だと思います。どうぞお見逃しなく！(普及室)

■私が Young 探鳥会をやりたいと思った理由 (続き)

紆余曲折の末「探鳥会ウォッチング」を始めた私でしたが、しばらくすると様々なことが見えてきました。

まず残念ながら、どこの探鳥会にも若い参加者は、ほとんどいませんでした。開催地や探鳥会の種類が違って、それは変わりませんでした。社会人になって数年の私と同世代の参加者がいた探鳥会は、比較的他よりとっつきやすく、フレンドリーな空気が濃く感じました。それは一部の定例探鳥会と、特定の担当者が入っている場合に限られているようでした。

それから、これは主催者側・参加者双方ともにですが、多くの種類の鳥に会えたり、珍しい鳥に会えた探鳥会は成功で、そうで無かった探鳥会は、不成功という空気があるように感じました。そういった雰囲気のある探鳥会にも、若手はあまり見掛けませんでした。



▲たくさんの種類の鳥が見られれば、良い探鳥会、といった風潮がある。家に帰ってフィールドノートを見ると、鳥の名前が並んでいるだけ。これでいいのかな…。

それと、参加者の数が多いのは盛況なんだと、最初は単純に考えていましたが、人が多くとゆっくり鳥を見られない、ということが度重なり「多数の参加者で過密になるのは考え物だな」と感じました。



▲ベテランには大したことはない鳥でも、自分はこの鳥、じっくり、しみじみ見ていたい。

フレンドリーな雰囲気がある、見られた鳥の種類や数にこだわりすぎない、ゆったりと観察できる…といった、自分の同世代が参加しやすいと思われる探鳥会の特徴を、私は探鳥会に参加しながらインプットしていきました。

さて、そうした視点で探鳥会を眺めてみると、どれか1つ2つを満たしている探鳥会はありましたが、全てを満たすものはありませんでした。Young探鳥会を私が立ち上げる時、その骨子とした項目は全て、この時の体験から来ています。参加者として自分が感じた「こうだったらいいのにな」を企画に落とし込んで実施したのです。

■自分が探鳥会リーダーに

自分のために色々な探鳥会を観察していた私ですが、何度も通っていると、顔見知りの幹事さん達も増えます。そうしている内に、色々なご縁から声を掛けていただき、神奈川支部の探鳥会リーダーを拝命することになります。

「リーダーにならないか？」と言われた時、私は正直「辞退した方が賢明だろうな」と思いました。野鳥の会に入っていると名ばかりの、鳥がほとんど分からない私です。リーダーに見合う実力なんか無いに等しいし、愛想も悪い、自分に自信が無い平凡な人間です。大勢の前で話をするなんて絶対出来ないと思っていたし、快諾する方が不自然でしょう。

しかしその時私は、人生で初めて人から大切な役目を「やってみないか？」と声を掛けていただいたのです。伸ばせば届くところまで手を差し伸べていただいたのです。だから応えたか

った。差し伸べて下さった手を無駄にたく無かったのです。それで背伸びになるけど、ご縁を大切にしたいとお受けすることにしました。

振り返ってみれば、もし高校の生物部での藤井先生との出会いが無かったら、私と野鳥の会の接点は生まれず、会員にならなかったでしょう。「リーダーにならないか？」と声を掛けられなければ、私が立候補する筈も無く、ひいてはYoung探鳥会も生まれなかったこととなります。そう考えると、数々の貴重なご縁には、心からの感謝を捧げたいと思います。

それにしても、まさか鳥が分からない私が探鳥会をやる側に回り、果てはYoung探鳥会を立ち上げることになるなんて、夢にも思いませんでした。ただ、同世代との交流が難しい現状を見るにつけ「鳥が分からない自分だからこそ、見える何かがあるかもしれない」という思いが、私の中に湧き上がって来ていたことは事実です。

■Young探鳥会の構想の源泉

誤解のないようにお断りしておきたいのですが、野鳥の会の探鳥会は、子どもから大人まで幅広い層が楽しめる、文句なく素晴らしいコンテンツです。私自身、今もその思いに変わりはありません。私はこれ迄の野鳥の会の探鳥会を否定するつもりなど、毛頭ありませんでした。参加しておられる年配者を蔑視する気持ちなど皆無でした。それは断言しておきます。

私がYoung探鳥会をやりたいと思った理由は、若い人達が探鳥会に参加しにくくなっている現状をふまえ、それに対応した特別な企画が必要だ、と考えたからです。

例えば絶滅危惧種の野鳥がいたなら、その鳥を救う為に、特別な保護策を施すはずですが、絶滅の心配が無い鳥と、同じ扱いのままにしておかないでしょう。助けが必要な野鳥を優先して保護するのが普通の考え方ははずです。

だから今、探鳥会に若い参加者が少なくなっている、来にくくなっているのなら、それをケアする特別な探鳥会が必要ははずだ。そう考えただけなのです。

この考えに至る1人の参加者としての私の体験が、Young探鳥会の源泉だったのです。

(次回につづく)

(日本野鳥の会神奈川支部／小松洋)

◆2019 日本野鳥の会東京・リーダーズフォーラム

6月29日(土)に、日本野鳥の会東京が西五反田事務所の会議室で、「日本野鳥の会東京・リーダーズフォーラム」を開催しました。普及室で探鳥会リスクマネジメントの時間を担当しましたので、フォーラム全体の様子と合わせてご紹介します。

日本野鳥の会東京では、昨年から、リーダーズフォーラムを開催しています。このフォーラムは、2017年に就任した東代表が、探鳥会を活性化していく上で、まずは探鳥会運営側の交流が進むことが大切だろうと考え、幹事・リーダー間の情報共有や意見交換の場として企画されました。名称を「研修会」ではなく「リーダーズフォーラム」としたのは、代表も探鳥会を運営する担当者としてリーダーと同じ立ち位置で意見交換したい、という意図があったからだそうです。今回は昨年に続き2回目の開催です。

■開催概要

- 【日時】2019年6月29日(土)
10時00分～18時00分
【会場】(公財)日本野鳥の会西五反田事務所
(東京都品川区)
【参加者】27名
(探鳥会リーダー12名、幹事15名)

■当日の流れと内容

10:00 開会・自己紹介

10:10-11:00 テーマ1

支部の現状を知っていただく

2018年度決算説明に加えて、支部で重点を置いた活動として、お試し入会付きの初心者向けバードウォッチングの説明と、昨年リニューアルしたホームページ(<https://wbsjt.jimdo.com/>)の紹介がありました。

11:00-11:40 テーマ2

各部・編集委員会への参加募集

支部報の編集委員会、保護部、研究部から、活動の紹介と、MLへの登録や部会への参加募集がありました。

11:40-13:00 昼食

13:00-14:40 テーマ3

探鳥会の魅力をあげるには

6グループに分かれ、ワールドカフェ形式で、「探鳥会の魅力とは」「探鳥会の魅力をアップするには」「持ち帰ってできることを宣言しよう」というテーマで、話し合いました。

各班からは、「トコロジストであるリーダーから話が聞けることが魅力ではないか」「定例探鳥会のリーダーを時々シャッフルするなどし、お互いの良いところを学びあう機会を作っては」などの意見が上がっていました。



▲発表の様子

14:55-16:35 テーマ4

探鳥会のリスクマネジメント

(講師：普及室/箱田敦只)

前半は講義形式で、探鳥会のリスクマネジメントについて、概要、指導者の法的責任、手順(リスクの発見、評価、対処、フォローアップ)を解説しました。

後半はグループに分かれて、実際の探鳥会でのヒヤリハットや事故事例について、「評価」と「対処」を考えました。

「参加者の服装」「子ども」「危険生物」「リーダー自身の体調」などに関する事例に対し、「参加者への事前の案内が必要」「危険生物に対する知識を身に付けたい」などの意見が挙がっていました。最後に普及室から、今後、探鳥会ごとにリーダーが集まり、今日のようなグループワークをする場を持ってほしいと伝えました。



▲グループワークの様子

16:50-18:00 テーマ5

すぐに使える探鳥会テクニック

以下3つのテーマについて、テーマに長けた参加者が中心となり、情報共有をしました。

- ・フィールドサイン
- ・双眼鏡／望遠鏡

(普及室／堀本理華)

- ・基本種（ヒヨドリなど）の解説

18:00-18:05 まとめ

18:10-20:10 懇親会

■まとめ

始終活発な議論が繰り広げられ、熱気に包まれていました。アンケートでは、探鳥会のリスクマネジメントの時間が印象に残ったという声を多くいただきました。人によってリスクの捉え方に差がある中、グループワークを通して、共通認識を作っていく様子が伺えました。

日本野鳥の会東京では、Young 探鳥会の取り組みから若いリーダーが増えてきているようで、今回も多く参加が見られました。学びの場、またリーダー同士の顔合わせの場として、こうしたフォーラムがあることの大切さを改めて実感しました。

◆日本野鳥の会石川・リーダー研修会報告

7月7日（日）に、日本野鳥の会石川でリーダー研修会が開催され、普及室より、箱田、堀本が講師として参加しましたので、内容をご紹介します。

昨年の全国連携団体総会では、探鳥会におけるリスクマネジメントに関するテーマ討論を行いました。その懇親会の席で、日本野鳥の会石川（以下、石川）からリスクマネジメント研修会について相談をいただき、今回の開催につながりました。

石川から周辺支部にもご案内いただき、当日は、石川から22名、富山から3名の参加がありました。

■開催概要

【日時】2019年7月7日（日）

13時00分～16時40分

【会場】石川県自然史資料館
(石川県金沢市)

【参加者】25名(石川22名、富山3名)

【講師】財団普及室 箱田、堀本

■当日の流れと内容

13:00 開会・オリエンテーション

13:10 講義

**『初心者向けバードウォッチング』の
仕組みと概要**

開催マニュアルに沿って、『初心者向けバードウォッチング』の実施状況や開催ポイントについて、お話ししました。

13:45 実習

リーダーと参加者のコミュニケーション

リーダーが参加者に何かを伝える際に、どのような難しさがあるのか、講義と実習で学びました。

14:30 講義

探鳥会のリスクマネジメント

探鳥会のリスクマネジメントについて、概要、指導者の法的責任、手順（リスクの発見、評価、対処、フォローアップ）を解説しました。



▲グループワークの様子

15:45 実習

探鳥会におけるリスクの評価

4組に分かれて、リスクマネジメントの手順の内、「リスクの評価」をグループごとに実践しました。これまでに体験した事故やヒヤリハットの事例を出し合い、それらを「事故

が起こる可能性」と「事故が起きた場合のダメージの大きさ」という2軸で分類し、どのような対処ができるか考えました。

16:40 閉会

■まとめ

5月に日本野鳥の会遠江で実施した研修会と同じ内容で実施しました。「リスクの評価」をする実習では、「クマがよく現れる探鳥地があった」「突然の吹雪」など地域特有の事例があがり、探鳥地ごとにリスクの洗い出しや共有をすることの大切さを感じました。

今後は、宮城（7/27開催済み）、埼玉、栃木、福岡でリスクマネジメントの研修会を開催する予定です。その他の支部で研修会のご希望等ございましたら、お気軽に普及室までご連絡ください。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会リーダーズフォーラム2018 ご報告（概要版）

2月16日～17日に宮城県仙台市で「探鳥会リーダーズフォーラム2018」を開催しました。今回は、15支部から34名の参加があり、そのうち16名が東北ブロックからの参加者でした。

ここでは「概要版」として報告させていただき、詳しい議論の内容を収録した「詳細版」の報告書（PDFファイル）を、別途ご希望の方にお送りします。（支部の役員、リーダーの方に限定させていただきます。）

「探鳥会リーダーズフォーラム報告書2018（詳細版）」をご希望の方は、「報告書希望」と明記の上、財団普及室（tanchostaff@wbsj.org）まで、①支部名、②お名前、③メールアドレスを添えてご連絡ください。

※リーダーズフォーラム参加者と各支部の事務局にはこちらからお送りさせていただきます。（申し込みは不要です。）

※報告書の閲覧は、支部の役員、リーダーの範囲にとどめていただくようお願いいたします。

- 日 時■ 2019年2月16日（土）
13:30～17日（日）12:00
- 主 催■（公財）日本野鳥の会 普及室
- 旅行実施■（株）南海国際旅行
- 会 場■ エスポール宮城（宮城県仙台市）
- 参 加 者■ 34名
- スタッフ■ 8名
- 参加支部■ もりおか、秋田県支部、山形県支部、宮城県支部、ふくしま、栃木県支部、東京、神奈川支部、愛知県支部、福井県、大阪支部、京都支部、鳥取県支部、徳島県支部、佐賀県支部（15支部）
- 参加費■ 10,000円
- スケジュール■
16日 13:30 オリエンテーション

- 13:45 アイスブレイキング
- 14:15 ワールドカフェ
「探鳥会を考えよう」
- 16:00 分科会A（120分）
- 18:30 夕食
- 19:30 懇親会
- 17日 7:30 朝食
- 8:45 分科会B（90分）
- 10:30 ワールドカフェ「現場に向けて」
- 11:40 クロージング
- 12:00 終了
- 分科会■
(1)「ビギナー探鳥会で入会者を増やそう
～3支部の取り組みから学ぶ～」
<参加者>16名（11支部）

＜発表者＞坂野（宮城県支部）、樋口（神奈川支部）、手塚（栃木県支部）

＜内容＞2014年度より始まった「初心者向けバードウォッチング」。2018年度は、全国31支部が開催し、年間の開催数は84回になりました。しかし入会促進への効果についてはばらつきがあり、ノウハウが確立されているとはいいがたい状況です。

そこでこの分科会では、3つの支部の初心者向け探鳥会の取り組みを紹介し、探鳥会を入り口に入会者を増やすノウハウについて議論しました。

1つ目の事例発表では、年1回の初心者向け探鳥会を開催している宮城県支部の事例、2つ目は年間十数回県内各地で開催されている神奈川支部。そして3つ目に探鳥会で大きく会員数を増やしている栃木県支部の事例が紹介されました。

議論では、他の各支部の取り組みも共有しながら、探鳥会の集客、接客、解説、会のPR、入会手続き、入会後のフォローなど、探鳥会の開催までの様々な取り組みが整理されました。

そして初心者が安心して参加できる探鳥会をある程度の頻度で開催することが入会者を増やすことにつながるという点と、体力のない支部ではなかなか回数を増やすことができないという現実が浮き彫りになりました。

（2）「鳥だけでなく人にも優しい！ ～バリアフリー探鳥会の実践～」

＜参加者＞12名（6支部）

＜発表者＞坂根（京都支部）、土居（鳥取県支部）、塚田（もりおか）

＜内容＞パラリンピックに象徴されるように、体の不自由な方の社会進出が進み、探鳥会においても車いすなどでの参加の事例が増えてきています。また、バードウォッチングを社会の隅々にまで広げるために、体の不自由な方のための探鳥会を開催する支部も増えてきました。

ここでは、京都支部、鳥取県支部、もりおかの事例を聞きながら、日本野鳥の会でのバリアフリー探鳥会の可能性について議論しました。

まずは、京都支部から車いすの方を対象とした探鳥会、鳥取県支部からは視覚障がい者を対象とした探鳥会、もりおかからは視覚障がい者と聴覚障がい者を対象とした探鳥会の事例紹介がありました。

質疑応答では、「なぜバリアフリー探鳥会

に取り組むのか？」という質問に対して、「『鳥を見たい』という人は、どんな人にも対応することがNGOとして使命である」「身体障がい者とのふれあいは自然の見方や感じ方に対する気づきがあり勉強になる」「来るべき高齢化社会では自分たちが障がい者として鳥を見ることになるかもしれない。そうした時代にそなえて今から仕組みを作っていきたい」といったコメントがあり参加者から大きな共感を得ていました。

（3）「女子探鳥会は支部を活性化させるか？」

＜参加者＞13名（8支部）

＜発表者＞細谷（山形県支部）、武田（福井県）

＜内容＞現在いくつかの支部で「女性向け探鳥会」が開催されています。これらの探鳥会は、支部の運営に女性視点を注入し、支部を活性化することにその目的があります。

ここでは、山形県支部と福井県の事例を紹介しながら、女性向け探鳥会がどのように支部の活性化につながったのかについてお話を聞きました。

山形県支部では、男性中心だった支部の中で少数の女性会員のニーズを拾って「鳥女（とりじょ）」というコミュニティを作り運営してきましたが、今後はそこに男性も混じりながら、女性も男性も無理なく参加できる探鳥会として運営していきたいとのことでした。

福井県では、従来の定例探鳥会の「参加のしにくさ」を実感した女性会員が、支部の役員等の協力を得ながら、女性向け探鳥会を立ち上げたこと、そして最近ではその探鳥会の参加者からの発意で「ヤング探鳥会」の実施にまで広がりを見せており、支部にとっては予想外の活性化を見せているという事例が紹介されました。

（4）「総点検！探鳥会のリスクマネジメント」

＜参加者＞15名（7支部）

＜発表者＞箱田、堀本（財団普及室）

＜内容＞現在初心者向け探鳥会を展開している支部を中心に、探鳥会のリスクマネジメントへの関心が高まっています。この分科会では、財団が実施しているリスクマネジメント研修のエッセンスを紹介し受講を呼び掛けるほか、それぞれの探鳥会で判断に迷う事例を共有しました。

ここ数年に出てきた脅威としては、熱中症や雷雨などの気象に関するリスク。そのためにあると便利なツールやアプリの紹介があり、実際にこれらのツールによって危機を脱

することができたという体験談や、そもそもの話として当日申込はやめて事前申込制を導入したという事例、車の相乗りをやめたという事例などが相次いで紹介されました。

また、その他にリスクマネジメントのためのリーダーの望ましい配置方法やリーダーが判断すべきこと、支部が判断すべきことを整理するなど、マネジメントを実施する体制にまで話が及びました。その中で、法的な観点から支部の判断の助けになるような指針を財団から出してほしいといった要望があり、会として何らかの仕組みづくりの必要性が示唆されました。

(5)「わかりやすいホームページを作ろう」

＜参加者＞9名（5支部）

＜発表者＞手塚（栃木県支部）、小林（宮城県支部）

＜内容＞近年、栃木県支部の初心者向け探鳥会での入会者の分析から、支部のホームページでの広報活動は、入会に結びつく重要なカギになっていることがわかってきました。

この分科会では、支部のホームページがどのように入会者を増やすことにつながるのかを検証し、栃木県支部にアドバイスを受けてホームページを整備した宮城県支部の事例を紹介していただきました。（宮城県支部では、ホームページやフェイスブックの整備に伴い、入会者の増加傾向が確認されています。）

栃木県支部の事例紹介では、ホームページの中で「探鳥会日程」、「探鳥地案内」のアクセス数が多く、個人で野鳥観察に出かけようという方が多く見ているとの報告がありました。また、ホームページにアクセスしている地域としては、東京が最も多く31%、2番目が栃木、3番目が茨城と県外からのアクセスが多く、県外からの参加者の受け入れ方についての議論もありました。

ホームページの充実と初心者向け探鳥会の実施。この両者がかみ合うことで入会者の増加につながるのではないかといった議論がおこなわれました。

(6)「野鳥の会育ちの子どもたちが社会を変える」

＜参加者＞16名（9支部）

＜発表者＞土居（鳥取県支部）、小嶋（福井県）

＜内容＞昨年度のリーダーズフォーラムでも同タイトルの分科会が企画され、そこでは事業の持続性をどのようにして担保するかとい

うことが主な議論となりました。

今年度は、鳥取県支部と福井県から行政と連携した事例を紹介していただきました。

鳥取県支部では、米子市立米子水鳥公園という施設主催の「子どもラムサール」事業に協力し、約20年間継続してきました。事業継続の鍵になっていたのは、やはり行政組織との連携にあると思います。

この他にも、支部独自の事業として巣箱づくり教室をおこない、ここで作られた巣箱は県主催の巣箱コンクールに出展されたり、ブッポウソウ用の巣箱については支部で行っているブッポウソウ保護事業に使われました。

さらに、「自由研究発表会」では、市内の各学校を通じて告知して応募者を募り、発表会を行います。最近では、研究のクオリティを上げるために「自由研究相談会」という事業も行っているそうです。これらの事業はすべて支部の主催か、もしくは行政の事業に支部が深くかかわって実施されているため、事業と事業が有機的に結びついて効果を高めているとのことでした。

福井県の三方五湖の「子どもラムサール」は、2018年度からスタートした事業で、ラムサール条約の登録湿地に認定されたことをきっかけに、福井県、企業、支部の3者で実施しています。

それまでは各地域で単発的な自然体験が行われていましたが、集客も悪く事業の継続も危ぶまれていました。「子どもラムサール」が行われることで、年間を通して系統だったプログラム展開が可能になり、集客もクリアできたそうです。

■全体を通じて■

今回の探鳥会リーダーズフォーラムでは、ここにご紹介した以外にも様々な支部の事例が紹介されました。じっくり話をするすることで、その事例の背景を含めて理解が進み、自分の支部にあったやり方を考えるヒントになります。

お互いの事例を共有しあって、支部の活動が共に進化していく、そのような形にまた一つ近づくことができたかなと思います。

（普及室／箱田敦只）

表1 2019年度春期「初心者向けバードウォッチング」結果一覧

NO	実施日	支部	実施場所	天気	全参加者数	一般参加者数 (全参加者に 占める割合)	初心者数 (全参加者に 占める割合)	お試し入会者数 (一般参加者に 占める割合)	リーダー数 (一人のリーダーに 対する参加者数)
No.1	4/6(土)	栃木県支部	勝山公園	晴れ	41	22(54%)	18(44%)	0	7(6)
No.2		遠江	飯田公園	晴れ	50	19(38%)	11(22%)	制度なし	4(13)
No.3	4/14(日)	根室支部	明治公園	晴れ	11	5(45%)	-	制度なし	2(6)
No.4		もりおか	盛岡高松公園	晴れ	27	9(33%)	2(7%)	制度なし	6(5)
No.5	4/20(土)	栃木県支部	宇都宮アルプスの森	晴れ	44	29(66%)	29(66%)	4(14%)	6(7)
No.6	5/1(祝水)	茨城県	常陸風土記の丘	くもり	25	17(68%)	18(72%)	0	5(5)
No.7	5/5(祝日)	大阪支部	大阪城公園	晴れ	51	45(88%)	37(73%)	2(4%)	12(4)
No.8	5/6(祝月)	栃木県支部	県民の森	くもり	64	45(70%)	30(47%)	2(4%)	8(8)
No.9	5/11(土)	栃木県支部	鬼怒川緑地運動公園	晴れ	22	8(36%)	5(23%)	0	8(3)
No.10		新潟県	新潟県立自然科学館	晴れ	23	17(74%)	-	未報告	-
No.11		ひょうご	神戸市立森林植物園	晴れ	46	40(87%)	32(70%)	2(5%)	11(4)
No.12		根室支部	明治公園	晴れ	9	6(67%)	-	制度なし	3(3)
No.13		苫小牧支部	出光カルチャーパーク	晴れ	20	14(70%)	8(40%)	3(21%)	6(3)
No.14		滝川支部	滝川東公園(海牛公園)	晴れ	22	9(41%)	7(32%)	制度なし	13(2)
No.15		もりおか	盛岡高松公園	晴れ	93	56(60%)	38(41%)	制度なし	3(31)
No.16		奈良支部	平城宮跡	晴れ	122	110(90%)	54(44%)	6(5%)	6(20)
No.17	5/12(日)		樗谿(おうちだに)公園	晴れ	22	13(59%)	4(18%)	0	4(6)
No.18		鳥取県支部	打吹(うつぶき)公園	晴れ	10	7(70%)	5(50%)	2(29%)	1(10)
No.19			大山寺周辺	晴れ	29	11(38%)	5(17%)	0	5(6)
No.20		筑後支部	王子池・高良山	晴れ	19	19(100%)	18(95%)	0	4(5)
No.21			清水寺本坊庭園周辺	晴れ	18	12(67%)	10(56%)	0	5(4)
No.22		西表支部	大富林道	晴れ	2	2(100%)	0(0%)	2(100%)	1(2)

No.23	5/18(土)	三重	三滝川大羽根運動公園	くもり	23	13(57%)	11(48%)	3(23%)	2(12)
No.24		鳥取県支部	大山	くもり	45	30(67%)	16(36%)	2(7%)	10(5)
No.25	5/19(日)	伊那谷支部	羽広仲仙寺	晴れ	32	27(84%)	-	制度なし	2(16)
No.26		鳥取県支部	大山	晴れ				No.24にまとめ	
No.27	5/25(土)	栃木県支部	渡良瀬遊水地	晴れ	49	23(47%)	18(37%)	0	10(5)
No.28	5/26(日)	石川	石川県健民海浜公園 (普正寺の森)	晴れ	23	23(100%)	15(65%)	3(13%)	8(3)
No.29	6/1(土)	根室支部	丸山公園、緑ヶ丘森林公園	晴れ	25	23(92%)	21(84%)	制度なし	6(4)
No.30	6/2(日)	広島県支部	広島城	くもり	25	18(72%)	14(56%)	0	5(5)
No.31		佐賀県支部	佐賀県立森林公園	くもり	28	8(29%)	7(25%)	0	3(9)
No.32	6/9(日)	根室支部	明治公園	晴れ	15	12(80%)	-	制度なし	3(5)
No.33		もりおか	盛岡高松公園	晴れ	25	9(36%)	6(24%)	制度なし	6(4)
No.34	6/15(土)	神奈川支部	茅ヶ崎市内(JR香川駅近く)	雨				雨天中止	
No.35	6/22(土)	栃木県支部	日光戦場ヶ原	小雨/くもり	27	16(59%)	11(41%)	0	8(3)
合計					1087	717(66%)	450	31	

*「初心者」は、カード式名簿のアンケートで、これまでのバードウォッチング経験が「0から4回」と回答した方。

*以下の「初心者向けバードウォッチング」では、当日の正式入会がありました。

No.1:5名、No.2:2名、No.4:3名、No.5:3名、No.8:6名、No.16:2名、No.17:1名、No.20:1名、No.22:1名、No.27:4名、No.28:1名、No.35:7名
(6月末に財団の支援者管理システムにて確認)

◆探鳥会保険集計結果（2019年6月分）

6月は72支部からご報告をいただき、計250回の探鳥会が開催され、のべ5,264人が参加されました。

表2. 6月の探鳥会保険集計結果（2019年7月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	2	22	27	2	51
根室支部	3	9	39	12	60
釧路支部	1	4	4	1	9
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	3	29	1	6	36
滝川支部	1	18	1	2	21
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	5	141	81	12	234
小樽支部	1	5	2	1	8
苫小牧支部	1	2	6	2	10
室蘭支部	1	7	1	3	11
道南松山	3	11	14	7	32
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	26	3	2	31
秋田県支部	4	49	2	4	55
山形県支部	4	35	10	6	51
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	2	33	9	9	51
北上支部	1	4	0	1	5
宮城県支部	2	54	13	5	72
ふくしま	1	30	0	2	32
郡山支部	3	16	1	9	26
白河支部	2	2	0	8	10
会津支部	1	7	0	1	8
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	14	1	1	16
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	4	20	57	8	85
栃木県支部	12	154	68	31	253
群馬	8	70	26	24	120
吾妻	1	17	0	2	19
埼玉	5	110	41	39	190
千葉県	6	45	12	26	83
東京	12	293	5	56	354
奥多摩支部	8	103	26	35	164
神奈川支部	8	99	20	26	145
新潟県	2	24	7	7	38
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	3	72	26	6	104
石川	3	30	43	12	85
福井県	3	21	14	12	47
長野支部	2	28	3	4	35
軽井沢支部	2	19	18	2	39
諏訪支部	1	3	4	2	9
木曾支部	1	3	3	1	7
伊那谷支部	3	20	53	6	79
甲府支部	2	38	5	4	47
富士山麓支部	1	13	4	2	19
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	6	0	2	8
南富士支部	3	85	13	5	103
南伊豆	1	8	0	2	10
静岡支部	1	5	1	3	9
遠江	2	38	14	9	61
愛知県支部	7	81	46	17	144
岐阜	-	-	-	-	-
三重	2	6	14	4	24
奈良支部	3	88	4	7	99
和歌山県支部	1	2	22	3	27
滋賀	4	28	27	8	63
京都支部	8	94	16	23	133
大阪支部	20	322	80	95	497
ひょうご	6	73	105	22	200
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	25	14	3	42
島根県支部	2	5	3	2	10
岡山県支部	3	43	40	12	95
広島県支部	5	56	38	9	103
山口県支部	1	5	1	1	7
香川県支部	4	109	38	5	152
徳島県支部	6	92	17	6	115
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	3	44	41	6	91
北九州支部	3	26	5	3	34
福岡支部	6	64	10	13	87
筑豊支部	6	75	6	6	87
筑後支部	4	34	11	8	53
佐賀県支部	3	65	11	3	79
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	39	29	5	73
大分県支部	1	18	5	2	25
宮崎県支部	3	15	4	3	22
鹿児島	2	37	15	8	60
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	250	3,288	1,280	696	5,264

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■2019年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします■

毎年8月5日は、財団が契約している探鳥会保険の契約更改の日です。契約更改に合わせて、各支部の事務局に「探鳥会保険についてのご案内」を改定してお送りしますので、ご確認をお願いします。

■探鳥会保険とは？

「探鳥会保険」は、財団や支部が開催する探鳥会活動をサポートすることを目的に、財団が窓口となり保険会社と契約している保険のことを指します。

この保険は財団が掛け金を払っているものですが、それは、支部が行う探鳥会は、財団と支部が共同開催しているという解釈が前提となっています。

より補償が手厚い「追加プラン」のご加入は、支部ごとにご検討いただき、掛け金は加入される支部に負担していただいています。

■今年度の主な改定箇所

◎下見も保険の対象になります。（「探鳥会保険についてのご案内」P4）

通常の探鳥会と同様に申請をしていただければ、下見も保険の対象となります。事故発生

時に参加者名簿を提出できるよう、ご用意ください。

◎参加者の名簿の必須の項目は「氏名」のみです。（同 P4）

事故発生時に提出していただく名簿は、氏名が掲載されていれば結構です。住所や電話番号は必須ではありません。

◎名簿の保管は、紙ではなく、デジタルデータでも結構です。（同 P7）

詳細は、各支部の事務局に郵送いたします「日本野鳥の会 探鳥会保険についてのご案内」をご覧ください。また、ご不明な点がございましたら、普及室 普及教育グループ探鳥会保険担当（tanchu@wbsj.org）までお気軽にお問い合わせください。

■冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

「初心者向けバードウォッチング」の冬期（2020年1月～3月）開催分の実施概要を募集しております。

2019年8月9日付で支部事務局あてに送付しました資料をご覧ください、冬期に開催さ

れる支部のみなさまは、2019年10月15日（火）までに、普及室 普及教育グループ（tanchu-staff@wbsj.org）へ実施概要をお送りください。

■今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは10月から受付開始！■

今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は、右記の日程、会場で開催予定です。

10月から受付を開始する予定です。募集要項は、探鳥会スタッフ通信にて、改めてご案内いたします。

【日 時】2020年2月8日（土）～9日（日）

【会 場】福井県中小企業産業大学校

（福井県福井市）<http://www.fisc.jp/fiib/>

【定 員】40名

【参加費】10,000～12,000円程度

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 8月号の電子メール版の購読者数は、先月から1名増えて855名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表3. 探鳥会スタッフ通信 8月号電子メール版の購読者数 (2019年8月7日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	軽井沢支部	1
根室支部	1	諏訪	7
釧路支部	3	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	5	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	5	遠江	11
道南桧山	1	愛知県支部	45
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	6
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	38	筑後支部	6
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	69	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	30	石垣島支部	1
福井県	11	西表支部	1
長野支部	1	合計	855

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

先月の始めは驚くほど涼しい日が続いていましたが、今ではしっかり暑くなりましたね。みなさまはいかがお過ごしでしょうか？

「ツバメのねぐら入り観察会」の時期まさかりですが、早くも「初心者向けバードウォッチング」の2020年1月～3月開催分の募集が始まりました。開催についてご検討していただくにあたり、ご不明な点がございましたら、財団普及室までお気軽にお問い合わせください。

また、今月号でお知らせしました通り、今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は、福井県で開催します。参加者の募集は10月から始める見込みですので、ご参加のご検討をよろしく願います。

★探鳥会の熱中症対策のご参考に★

横浜市のホームページで「夏季イベントにおける熱中症対策」のリーフレットが公開されています。「熱中症対策チェックリスト」や、救急時の応急処置の方法もわかりやすくまとまっていますので、ぜひご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/kenkozukuri/kakushu/necchusho/heat.html>

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第77号

◆発行

（公財）日本野鳥の会 2019年8月9日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org
